

Good Job
グッドジョブ!!

現場で働くプロに聞く!!

熊本地方務局分室



システムエンジニア SE

名前

いまむら あいこ
今村 愛子 さん(辻の城団地)

会社名

株式会社カインドワン(大津町)

職歴

3年

買い物やネット予約、電子会議、車のナビなど、パソコンや携帯電話で簡単にできるようになった現代。普段何気なく使っている便利なものはシステムエンジニア(以下SE)の力で開発され、運用されている。

今回は派遣SEとして、法務局に向向している今村愛子さんに話を伺った。

機械に囲まれた幼少期

SEになったきっかけは育った環境が大きいという。「私の祖父は通信科所属の自衛官でした。それから通信業界に転職。その関係で私が子どものころにはパソコンが家にありました」

当時、家庭用パソコンは全く普及しておらず、家にあるほうが珍しいほど。その時の価格で約100万円。しかも現在のようなノート型や薄型ではなく、事務机がそのままパソコンになったような巨大なものだった。

「今思ってもおもしろい遊びに遊んでいましたね(笑)。父もそういうものが好きで、コンピューターがある生活が当たり前でしたね」

周りが普通高校へ進学する中、今村さんは入試難関校として知られる熊本電波工業高等学校(現熊本高等専門学校)に進学。数あるプログラミング言語※をそこで学び、SEとしてのスキ

ルを高めていった。

仕事で社会貢献も可能

「日陰の職業」。今村さんはSEの仕事をそう例えた。

「数字やアルファベットの羅列を一人で黙々と打ち込んでいくため、根気が必要です。それに実際にシステムを使用するお客さんとは一度も顔を合わせない、ということも多いです。孤独感も結構ありますね(笑)」

また、出向先である法務局は全国の登記情報を扱うため、作業には細心の注意を払う必要があるという。

「登記情報は国の一大財産。少しのミスが重大な損害に繋がることもあります」

いつも通り気の抜けない作業をしていたある日、思いがけず嬉しい出来事があった。

「法務局の上層部の人が視察にいられて『みなさんの作業が東日本大震災の復興に大きく役立っている』とお礼をされました」

一度も会うことがないお客さんの顔が見えた瞬間だった。今村さんは「層張り切って作業するようになった」と振り返る。

「SEは時代のニーズにあったアイデア一つで無限の可能性があります。派手な仕事ではありませんが、人知れず社会の役に立っているとと思うと、やりがいのある職業だと感じます」

※プログラミング言語=コンピュータに対する一連の動作の指示を記述するための人工言語



▶(左写真)よさこいで有名な「肥後益城躍進隊」のメンバーでもある今村さん。仕事とは打って変わり、派手な衣装に身を包んだ今村さんは会場を盛り上げる。(ステージ上の右から2番目)

▶(右写真)写真は今村さんの祖父。「私の祖父は84歳でWindows8.1を使っています(笑)」と今村さんは笑いながら話してくれた。